

佐田西出天王さんのお社塔

【日 程】 7月上旬 (13日に近い日曜日)

【場 所】 作業：西出生活改善センター
設置：集落中心部のT字路

【参加者】 西出自治会4組 30世帯の男性

【願 い】 疫病退散など



詳しい作り方は
こちら

佐田西出天王さんのお社塔作りは、毎年7月14日の天王祭前に集落の男性全員(30世帯・30名)で行われます。女性や家族で不幸があった家の人は参加しないことになっています。

お社塔を地元では「天王さん」と呼び、お札を替えることを「天王さんまつを祀る」といいます。天王さんは、西出集落の中心部で、道路と道路が交差するT字路のつきあたりにあります。その横には文政6年(1823)の銘がある常夜灯が建っています。

この行事は天王信仰に関連するもので、西出集落は、麦ワラと竹を素材に天王さんを作り、定期的に作り直している点が特徴です。

屋根は毎年新しく作り、柱は2年に一度取り替える決まりになっています。この天王さんは、高さ2メートル程で、孟宗竹もうそうちく4本を60センチメートル間隔に地面に据えて柱にし、麦ワラの屋根を載せる。屋根には3本の鰹木かつおぎが表現されている。高さ1.3メートル付近に、竹を組み合わせた棚ほこらを作って祠状にし、中に津島神社のお札を祀る。新しく天王さんができると、参加者が順番にお参りして疫病退散などを願います。

西出以外の集落にも道路の脇に小さな祠があるよ。どんなことを祈っているのか地域の人に聞いてみよう！



完成した祠にお参りをする地域の人々

*この内容は令和元年(2019)度実施した映像記録事業での聞き取り調査や過去の調査資料をもとに作成しました。内容が変更になっている可能性もあります。

キーワード：伝統行事、風習、天王さん、津島信仰、お社塔、西出